

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 80 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 80 回 : 2017 年 9 月 21 日 (木) 13:30~17:00

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 872 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 岡野, 浦野 (石田代理), 岩谷, 喜多,
小谷, 佐藤 (輝), 黒岩, 小森, 鈴木 (谷口代理) (12 名)

(常時参加者) 濱口, 野村, 池田, 丹野, 島崎, 友澤 (6 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-80-1 第 79 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-80-2 停止時 PRA 標準改定案に係るコメントへの対応

P4SC-80-3-1 内的事象 L1PRA 標準 議論検討用 (抜粋)

P4SC-80-3-2 適用可能な手順及び実施例 議論検討用 (抜粋)

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 12 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 79 回議事録の確認

資料 P4SC-80-1 を用いて第 79 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 停止時 PRA 標準改定案に係るコメントへの対応

資料 P4SC-80-2 により, 停止時 PRA 標準改定案の標準委員会決議投票でのコメント対応に関するリスク専門部会での議論について説明があり, 対応について議論を行った。

・箇条 8.2.1 へのコメントに対して, 対応案で用いられている「水蒸気雰囲気」の定義が必ずしも明確でないことから, 関連する文献での規定振りや PCT1200°C の適用論理などを調査の上, 表現について見直すこととなった。また, これを踏まえて解説 8 に燃料周りの状況例を追記することを検討する。

(4) L1PRA 標準統合性能化検討

資料 P4SC-80-3-1 と資料 P4SC-80-3-2 により、出力運転時・停止時のレベル 1PRA 標準の統合・性能規定化と今後の進め方について議論した。

- ・6月に専門部会にて性能規定化の方針が出ていることから、今後の統合・性能規定化の検討スケジュールについて審議し、和文版と並行して英文版の策定を進めることとなった。これに伴い、6月以前の発行済み標準の英訳は、統合・性能規定化の英文版に引き継ぐこととした。これらの工程を専門部会からの5ヵ年計画更新依頼に反映する。

- ・箇条7起因事象、箇条8成功基準を題材として、統合・性能規定化の標準構成に関して検討し、主に以下の議論があった。その他、追加で指摘のあった事項等についても今後を検討していく。

- －用語に関して、「運転状態」を「運転、停止状態」とし、7.1a)項の実施すべき項目として見落としの確認を追加する。

- －従来規定で箇条書き等の個別具体的な手順を記しているところなどは、許容される方法として規定と区分するなど、今後に米国標準なども比較検討の上扱いを整理する。

- －規定の中には、原則として理由となるような部分は記載せず、別出しとすることで整理する。

- －パラメータ推定標準の引用に関して、本体規定でまず要求事項を記した上で、許容される方法としてパラメータ推定標準を引用することで統一していくこととなった。今後のパラメータ推定標準の扱い・位置付けは、性能規定化と合わせて他の標準からの引用状況なども踏まえた上で検討していく。

- －従来規定で妥当性確認と合わせて要因分析が要求事項として記されている所があるが、両者の目的は異なるはずであることから、今後に性能規定としての構成を検討する。

- －成功基準に関しては、現在改定中の停止時 PRA 標準の議論結果を反映する。

- －原子炉の運転状態に関して、「高温又は冷温停止」の他に、新規制基準の適合性審査等で「安定停止状態」という概念が用いられてきていることから、適用について今後を検討していく。

- －規定の標題に関しては、目的と同様な用語は避け、実施すべき項目を記すよう統一していく。

(5) スケジュール、その他

標準委員会の用語辞典の年度更新案について、コメントがあれば次回分科会までに幹事宛連絡することとなった。また、今年度の倫理教育を行った。

次回分科会は10月26日PMを候補とする。

以上